

話題がいっぱい /  
なかゆくい

市内各地で行われたイベントや、  
まちの話題をお届けします。  
ここで“なかゆくい”しませんか。  
(なかゆくい=ひと休み)



市ホームページ「うらそえトピックス」  
にも市内のできごとを紹介しています。



### 7/8 泉州市とオンラインで絆を深める

友好都市の中国福建省泉州市の晋江小学校と、沢岷小学校の児童による交流授業がオンラインで行われ、児童たちは学校紹介や、歌や踊りを披露して絆を深めました。途中の質問コーナーで沢岷小の児童が宿題についてたずねると、「宿題は簡単なドリルに親子読書、なわとびや家事を手伝う事などです」という泉州市からの回答を受け、児童たちは宿題の内容の違いに驚いた様子でした。

小学5年生の西平愛唯さんは、「はじめは緊張したけど楽しかったです。向こうの小学生はきちんとしていて優秀な感じがしました。泉州市の映像を見ていつか行ってみたいと思いました」と話しました。



### 7/6 てだこ大使が一日警察署長に

飲酒運転根絶、交通事故の抑止対策、飲酒に絡む事件事故を防止するための「ちゅうら島飲酒」を推進するため、浦添市てだこ大使の3人が浦添警察署で一日警察署長を務めました。

てだこ大使たちは、一日警察署長として飲酒運転の根絶や危険運転を防止するための警察広報用の動画を撮影したり、浦添警察署員と共にラジオ番組に出演し注意を呼びかけました。この日に撮影した警察広報動画は、8月から10月にかけてピーススクエアやホームセンターさくもなど市内6か所の大型モニターや浦添市役所で放映されます。



### 7/6・7・8 水難事故発生に備えた訓練

浦添市消防本部は、これから海や川などで水難事故が起こりやすい時期となるため、緊急時に備え7月6日から8日の3日間、伊奈武瀬卸売市場北側海域一帯で訓練を実施しました。今回の訓練は、組織としての現場対応力向上を目指し、過去に消防本部管轄内で発生した事例をもとに、可能な限り実際の状況に近い内容で計画しました。

消防隊員は「夏場の海遊びは人気のレジャーである反面、多くの危険を伴います。子どもも大人も危険・遊泳禁止など標識のある場所へは入らず、また、大雨・強風の時は水辺に近づかない等、危険性を把握し、十分な対策をした上で楽しんでほしい」と話しました。



### 7/13 神森中の山城さんにてだこ市民賞

全国女子相撲選抜ひめじ大会の中学高校の部(超軽量級50kg未満)で、優勝を果たした神森中学校1年の山城絆南さんが第52号となる輝くてだこ市民賞を受賞しました。今回の大会では、大柄の選手や年上の選手を相手に、緊張する場面もありましたが、相手の動きをしっかりと見て、下手投げや送り出しなど多彩な技で勝ち進み、優勝まで上り詰めました。

現在、山城さんは女子サッカー部に所属しながら、週3回の相撲の練習に取り組んでいます。「次の目標は全国大会で連覇をすること。持ち味である立ち合いの時のスピードに加え、土俵際の投げをもっと練習したい」と今後の意気込みを話しました。



### 7/6 「社会を明るくする運動」にご協力を

「社会を明るくする運動」への協力を依頼するメッセージ伝達式が市役所で行われました。

この活動は、犯罪や非行を防止し、立ち直りについて理解を深め、それぞれの立場で力を合わせ、明るい地域社会を築くことを目的とした全国的な運動です。

毎年7月の運動強化月間に向けて、岸田文雄内閣総理大臣、玉城デニー沖縄県知事、半嶺満沖縄県教育長から市長、議長、教育長にメッセージが届きました。

犯罪のない明るい地域社会を願うシンボルである「幸福の黄色い羽根」を胸に付け、中部南保護区保護司会と更生保護女性会がメッセージを代読し、立ち直り支援の輪への参加を呼びかけました。



### 7/4 広がる見守りの輪、安心のまちづくり

大東ガスパートナー株式会社との浦添市地域見守りネットワーク事業協定締結式が市役所で行われました。

この事業は、市内の各団体や企業などの見守り団体と、市および浦添市社会福祉協議会が連携し、地域住民の見守りや安否確認、声掛けなどの対応を行う事業です。

大東ガスパートナーの高橋道仁取締役は「当社は、人の『生きる』を支えることを目標にしており、日々の業務の中で、ちょっとした気付きからの地域貢献を行っていききたい」と意気込みを話しました。

今回の締結により登録事業所は27か所となりました。



### 6/30 立ち直りに寄り添う活動が評価

23年間保護司を務め、4月に藍綬褒章を受賞した西銘生弘さんが市役所を訪れ、市長に受賞の報告をしました。藍綬褒章とは、国や地方公共団体から依頼された公共の事務(保護司、民生・児童委員など)に尽力した人に贈られる賞です。西銘さんは、PTA活動をしていた時に、先輩に誘われて保護司を始めました。保護司は犯罪や非行をした人の立ち直りを支える活動で、これまで約60人の更生に関わってきました。

松本市長は「昔から西銘さんの素晴らしいご活躍を見ってきました。時代は変わっても大人の力を必要とする人たちはいる。今後もお力添えをいただきたい」と西銘さんに祝福と賞賛の言葉を述べました。